

0-10

COVID-19 感染症病棟体制構築の経過報告

○生井 郁子、上野 秀子

獨協医科大学病院看護部

2019年12月から全世界に発生した新型コロナウイルス感染症（以下 COVID-19）は、2020年1月に日本でも発生した。当院では、2月に患者を受け入れる方針を整え、A病棟が該当となった。二次感染防止および患者の増加に伴い、4月からは、COVID-19専用病棟として運用開始し、10月までに14人の患者対応をしている。疾患に関する情報が少ない中、多くの部署の協力を得ながら、看護体制を調整し環境を整備して患者対応体制の工夫をしてきた。みんなで意見を出し、医療者・患者がともに安全・安楽な方法の検討を繰り返しながら、病棟の体制を構築してきた。この経過の状況共有を目的に報告する。

0-11

新型コロナウイルスの重症患者受け入れに対する準備と業務改善

○寺内 浩美、中田 哲也、神馬 千登勢

獨協医科大学病院看護部

当院では初めて2020年2月新型コロナウイルス患者を、救命ICU病棟で受け入れることとなった。感染制御センターと協働し施設のゾーニング、病床の確保、衛生材料や防護関連用具の確保、患者を受け入れるにあたってのマニュアル作成等の準備を進めた。感染患者の受け入れのための人員配置の調整や救命救急ICUに入室する患者調整を行い、安全に新型コロナウイルス患者に対応できるよう体制の構築に努めた。2021年1月まで救命救急ICUでは26名の感染患者を受け入れ、感染の拡大なく治療・看護の継続が図れている。医療従事者のメンタルヘルスケアと患者・家族のケアを振り返り、新型コロナウイルス患者の受け入れに対しての取り組みを報告する。